



## システムへの関心

### プロジェクトを手がけたい

高校で情報科に在籍したことが、システムの勉強を志した原点です。さまざまなデータを扱う情報処理などの授業を通し、プログラミングを行って実際にシステムを開発したくなりました。また地域に根ざす多くの研究を手がけ、大学としての路線が明確な点にも引かれました。

## 未来を視野に

### 卒業研究、エンジニアの道

仕上げへ向けて熱を帯びてきたのが、学部生活の集大成である卒業研究です。1年の頃からコツコツ積み上げてきたものが、あるテーマのもとで有機的に連動するので、どんな形で実を結ぶのが楽しみです。システムエンジニア目指し、一日一日を大切に過ごしています。

## HIRAIZUMI

### ポータブル観光ガイドの研究

社会情報システムという領域を専攻し、具体的な対象分野は観光です。世界遺産登録が期待される平泉をフィールドとする、ポータブル観光ガイドの研究に取り組んでいます。システムの多言語化・コンテンツの拡充を図り、携帯電話ユーザーのための情報発信を担います。

## 多言語仕様で

### スマートフォンへの対応も

きわめて今日的な研究は、増加が見込まれる外国人観光客へのサービス提供が目的です。日本語と英語に加え、他の言語バージョンも利用できるような工夫を重ねています。さらに、情報端末の大きなトレンドであるスマートフォンへ対応する研究も本格化してきました。

地域や時代の「いま」を映す、  
なくてはならない研究テーマ。

社会情報システム学講座/4年

永野 誠人 (岩手県立宮古商業高校卒)



## プロジェクト演習

### グループワークの効用は大

あるテーマのもとに1~3年生とティーチングアシスタントが集い、グループワークを展開するプロジェクト演習。オリジナルの視点とロジックで課題を捉え、システムを構築していく流れを体感できます。コミュニケーション能力、プレゼン能力の養成にも有益な機会です。

## 講座の一員

### いろいろな学年と交流だ

各自に専用のパソコンが割り当てられ、研究室は24時間、いつでも利用できる。このように恵まれた環境で勉学に打ち込めるのは、本当に幸せなことだと思います。1年次から講座の一員として研究生活を送るので、同級生だけじゃなくて上級生・下級生とも仲良くなれます。

## 教員から アドバイス

### 利用者の視点で 考えよう。

### 阿部 昭博教授

後輩への指導、プロジェクト演習の推進など講座でのリーダーシップも光ります。技術的な要素に加え、利用者の視点で情報サービスを企画・提案・構築する総合力を培い、情報システムの醍醐味を実感してほしいと思います。

